

# イギリスにおける大学院教育の中の日本研究／日本語教育 ーロンドン大学 SOAS を中心にー

田中和美 (国際基督教大学、元ロンドン大学 SOAS)

【キーワード】 イギリス、ボローニャプロセス、大学院教育、  
日本研究、日本語教育、ロンドン大学 SOAS

## 1. はじめに

ヨーロッパにおける高等教育は、1999年のボローニャ宣言に始まるボローニャプロセスによって大きな変容を遂げた。ボローニャ宣言は、2010年までに高等教育における欧州圏を構築し、世界に通用する高等教育制度を確立させるという目標を掲げたものである。教育内容の透明性、人及び知識などの流動性、教育における協働等を促進することによる質保証を目指した。具体的な施策としては、学部と大学院における3サイクルの学位制度の確立、欧州単位相互認定制度 (ECTS) と Diploma Supplement の運用、National Qualification Frameworks の制定がある。

ボローニャプロセスの中心課題は、学位制度の見直しであった。国／地域によって制度が異なっており、その年数、内容、名称も様々であり、それでは、世界の労働市場において競争力が劣るといふ経済的、政治的危機感が後押しとなり改革へと進んだ。ボローニャプロセスの目標達成年である2010年発表の報告書 (European Commission 2010a) によると、学位制度の実施は概ね以下のようなところに落ち着いてきている。調査対象はボローニャプロセスに参加している47国／地域である。ボローニャプロセスが促進している3サイクル学位は、ECTS を使用して記述しており、1 学歴年を60 ECTS credits としている。

表1：ボローニャプロセス 学位制度

第1サイクル 学士 BA	25国 / 地域で 180 ECTS (3学歴年)	13国 / 地域で 240 ECTS (4学歴年)
第2サイクル 修士 MA	27国 / 地域で 120 ECTS (2学歴年)	90 ECT, 60 ECTS もある
第3サイクル 博士	特に指定はない	

\*1 ECTS credit は25～30時間の学習 (授業外学習も含む)

ボローニャプロセスのサイクル制度の導入が参加国のほぼ半数の国／地域で90%に及んでいるという結果である (European Commission 2012)。もっとも多く見られるのは180+120 ECTS credits モデル、すなわち学部3年、修士2年であるが、一律ではない。

ヨーロッパ内の若者対象の調査結果によると、大学生の3分の2は卒業後も学業を続けたいと考えているようだ。この中には、働きながら勉強をするというの也被れている。修士

課程の学生の42%は学業を継続したい、44%が続けないと回答している（European Commission 2010b）。修士課程の学生が増加しているという話をきくが、それはまだ第1、第2サイクルが定着していないからだと考えられる。従来の高等教育は学士号の授与はなく、修士号を修得するものであり、就職するには修士号が有利であるという考えが受け継がれているためだという分析である（European Commission 2012）。

## 2. 英国の大学院教育

英国は、ボローニャプロセスの学位制度に関しては、あまり影響を受けていない。何世紀にもわたって確立してきた英国の制度をヨーロッパ全体が受け継いだという観点を持っている。英国では、学士号は通常3学歴年（180 ECTS）、修士号は1年（90 ECTS）で修得すると考えられてきており、2年制の修士課程が散見されるようになるなどの変化は見られるが、特にボローニャプロセスによる改革というものはなかった。しかしながら参加国であるため、ECTS、Diploma Supplement などのツールの導入はなされている。

英国における教育全般は中央政府の政策に基く。大学院教育（postgraduate education）は、第1学位を取得し、さらに学業に励むことと捉えられ、修士課程と博士課程以外に高度な専門資格課程を含む。高等教育質保証機構（Quality Assurance Agency QAA）が学習成果と達成度を基準に学位の定義を定めている。2007-8のデータによると、50万人以上の学生が大学院に在籍しており、そのうちの56%が修士課程であった。また、修士課程の学生のうち50%が英国籍以外の学生であった（Higher Education Policy Institute and the British Library 2010）。

## 3. 英国の大学院における日本研究

英国では、UCAS（Universities and Colleges Admissions Service）という大学入学センターが大学出願手続きを一括して行っており、大学入学希望者は Oxford 大学と Cambridge 大学を除き、個別の大学に出願することはない。UCAS のウェブサイトには、英国の全大学の全学位コースが検索できるようになっている。この検索機能で大学院の学位で次のキーワードを入れてみた結果を記す。〈アクセス日 2013年12月17日〉

表2：UCAS 検索結果

キーワード	該当件数
Japan	63
Japanese Studies	12766
Japanese	72

このうち学位名に Japan もしくは Japanese がついているものを列挙してみたのが表3である。

表3：英国における日本関係の学位

学位	学位名	機関	日本語について
MA	Japanese Cultural Studies / Japanese Creative Industries Studies	Birkbeck College, University of London	日本語学習可能
MA	Japanese Studies	University of Leeds	日本語学習可能
MA	Japanese Business	University of Leeds	日本語学習可能
MA	Japanese Studies	University of Sheffield	日本語学習可能
MA	Japanese Studies	SOAS, University of London	日本語学習可能
MA	Japanese Literature	SOAS, University of London	日本語学習可能
MA	Applied Linguistics and Language Pedagogy (Japanese)	SOAS, University of London	母語話者、超級者対象
MSc	International Management (Japan)	SOAS, University of London	日本語学習可能
MSc	Japanese Society and Culture	University of Edinburgh	
MSt	Japanese Studies	University of Oxford	日本語上級者対象
PhD/MPhil	Japanese	Birkbeck College, University of London	
PhD/MPhil	Japanese	University of Edinburgh	
PhD/MPhil	Japanese Studies	University of Manchester	

その他は、East Asian Studies、Asian Studies、Pacific Studies、International Relations などに日本が含まれるという形となる。

#### 4. School of Oriental and African Studies (SOAS) , University of London

##### ロンドン大学東洋アフリカ研究学院のケース

1916年に創立されたSOASは、ロンドン大学連合の一員で、ヨーロッパの高等教育機関の中で唯一、アジア・アフリカ・中近東研究を専門としている。学生数は約5,000人、そのうち50%が世界120カ国以上からの留学生で、多文化共生社会の見本であると言え、非常にユニークな大学である。SOASでの日本語教育は1945年に始まっている。当初は、軍事教練の一部であり、6か月の集中教育の後、戦地に送られたのである。この集中日本語教育を基に語学教授法が発展したと言われている。

学部課程、修士課程、研究課程で幅広いコースを開講しており、これらのコースで授与される学位はロンドン大学のものである。教員対学生の比率が1:12と、英国でも屈指の少人数教育を行っている。3つの学部に分かれており、それぞれの構成は以下のようである。

表4：SOASの学部構成

法学・社会科学部	法学科、経済学科、政治学科、開発研究学科、経営・財務学科
人文・芸術学部	歴史学科、人類・社会学科、宗教研究学科、音楽学科、美術学科、美術史・考古学科
言語・文化学部	アフリカ学科、中国・内部アジア学科、日本・韓国学科、中近東学科、南アジア学科、東南アジア学科、言語学科

SOAS の大学院教育を見ると115以上のプログラムが提供されている。ホームページから大学院学位プログラムの検索で Japan というキーワードを入れてみると66件検出される。その中で、学位に Japan, Japanese が含まれているものには前項で述べた4学位がある。さらに、ほぼすべての学科で日本について学ぶ選択肢がある。次の表は、日本を対象とした修士課程プログラムである。〈アクセス日 2013年12月19日〉

表5：SOAS の日本関係の修士課程

学位	修士号のタイトル	内容紹介における日本、日本語に関する記述 (抜粋)
MA	Pacific Asian Studies	The courses chosen must cover three of the four regions of China and Taiwan, Japan, Korea, Southeast Asia.
MA	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ History of Art and Archaeology</li> <li>・ Religious Arts of Asia</li> <li>・ Contemporary Art of Asia and Africa</li> </ul>	The regions covered include China, Japan, Korea, the Islamic world, the Indian subcontinent, Southeast Asia, and Africa (including the African Diaspora) . While knowledge of a relevant Asian or African language is not a requirement, for some courses it is an advantage for admission (see individual course descriptions for details) . It is possible to include an element of language training within the MA programme by taking an Asian or African language as one of the two 'minor' courses.
MA	Theory and Practice of Translation (Asian and African Languages)	Arabic, Chinese, Japanese, Korean, Persian, Swahili. Applicants should provide evidence of their proficiency in their chosen language at a level acceptable to the School
MA	Taiwan Studies	
MA	Traditions of Yoga and Meditation	meditational techniques and doctrines of India, Tibet, China and Japan
MA	Comparative Literature (Asia/Africa)	A prior knowledge of an African or Asian language is not a requirement for admission to this degree. Texts include both original English language literatures of Africa and Asia and literature written in African and Asian languages presented through English translations.
MA	Critical Media and Cultural Studies	contemporary issues discussed in Asian and African media
MA	Cultural Studies	cross-cultural contexts of Africa, Asia and the Middle East
MA	Religions of Asia and Africa	Buddhism in nearly all its doctrinal and regional varieties, Asian and African Christianities, Hinduism, Islam, Jainism, Judaism, Shinto, Taoism, Zoroastrianism as well as the local religious cultures of Asia and Africa.
MA	Global Cinema and the Transcultural	regional cinemas on offer in the School: Japanese, Chinese (mainland, Hong Kong & Taiwanese) , mainland and maritime South East Asian, Indian, Iranian, Middle Eastern and African. It also enables students to combine specialist film studies knowledge with a minor course in an Asian or African language
MA	Anthropology of Media	detailed introduction to the study of media in Asia, Africa, the Middle East and their diasporas.
MA	Anthropology of Travel, Tourism, and Pilgrimage	including evidence from the Muslim, Hindu, Jewish, Japanese, and Christian worlds;
MA	History: East Asia	
MA	Gender Studies	specificities of Asia, Africa and the Middle East
MSc	Asian Politics	
MSc	Development Studies	
MSc	International Politics	
MSc	State, Society and Development	economic take-off in East Asia

## 5. SOASのMA in Applied Linguistics and Language Pedagogy (Japanese) プログラム概要

ヨーロッパで唯一の日本語応用言語学、日本語教授法を学べる修士課程として1996年にMA in Applied Japanese Linguisticsという形で始まった。教員免許を授与するわけではなく、実学よりディシプリンとしての応用言語学の学問を中心とすることを目標としている。高い評価を得、さらに他言語でも同様のプログラムを提供することにし、2008年より上記学位名となり、現在は 中国語、日本語、韓国語、チベット語の4言語から選ぶことができる。9月末に入学し、翌年の9月15日に修士論文を提出する1年間の90ECTSのサイクルとなる。授業は10月から4月まで、10週x2の2学期間で、5月は試験期間となる。その後、夏に修士論文を書く。

日本語でのこのプログラムを履修する学生は、日本語母語話者で現職の日本語教師及び日本語教師を目指している人が多いが、非母語話者も毎年いる。講義、授業、レポート、修論はすべて英語で行われるので、英語能力が一定以上でなければ入学できない。履修人数は、毎年1~10名程度である。卒業生は、翻訳や英語教育に携わる者もいるが、大学レベルや学校外教育で日本語教師となっている者が多数いる。

プログラムの必須科目は“Language Pedagogy”という各言語に特化された言語教授法であり、必須選択科目には第2言語習得論、構文論、言語構造論などがある。このプログラムの最大の特徴は、理論と実践を合わせていることであり、この方式は他に例をみない。

日本語に特化された科目は、“Japanese Language Teaching and Learning”で、週2コマの理論面についての講義、講読、ディスカッション、さらに、週1コマの実践面のクラスが加わる。評価は理論面の学年末試験60%と小論文10% x2回、そして実践面20%である。日本語教育を専門とする教師1名が担当する実践面では、次の3点をカバーする。

### 1) 授業観察

担当教師が受け持つ週3コマの選択科目の「初級日本語1」をコース開始日から最終日までの授業を観察する。それにより、日本語教育における様々な教授項目の教授法や習得時の躓きなどを学ぶだけではなく、授業運営、授業内でのインターアクションとその効果、クラス内のグループダイナミクス、学生の言語習得の軌跡など多くの面を直接観察し、体験できる。

「初級日本語1」は、日本語専攻の学生ではない学部生、大学院生が選択科目として履修する。1クラス20名ほどで、『みんなの日本語1』の1~22課までを約60時間で学習する。漢字を170ほど導入するが、非漢字圏の学生を対象に文字学習のために1コマ補講を設ける場合もある。授業は基本的に日本語で行うが、時間や効率性を考慮し英語を媒介語としている。コースの初めに、修士課程の学生が授業観察をすることと2学期目には実習をすることを述べ、了承を得る。授業参観をする修士課程の学生は、教室の後ろに座り主に教師を見ていることになるが、担当教師の指示で、「初級日本語1」の学生の近くに来て書いていることや言っていることを観察する。クラス内のアクティビティーに参加することはないし、教師のアシスタントをすることもない。これは、授業は教師一人で行うものであることを徹底するためである。

## 2) 講義、ディスカッション

1学期目の週1コマは担当教師との授業で、授業観察、言語技能、学習項目、教材分析などについての講義やディスカッションを行う。最初のころは観察する課題、例えば文字の誤りの傾向、母語の影響、習得速度の差などを与えられる。また、理論面の講義との関連で、観察することを指示されることもある。20週間のコースの授業観察ということは非常に貴重な経験であり、それぞれがあるテーマを持って観察することを奨励している。担当教師との授業では、テーマを設け、観察したことに基き疑問点を出し合い、議論を行う。1学期後半には、教育実習を念頭に教材分析も入念に行っていく。

## 3) 教育実習

2学期目には教育実習を行う。修士課程の履修人数によるが、二人で1週3コマ（1単元）を担当し、それを2回する。実習のため、授業で使用する例文や指示の言葉、板書することなどの詳細を書いたシナリオとなる教案（細案）を書く。それを元に担当教員と数度話し合い、検討する。その後修士課程のクラスで模擬授業を行い、さらに教案を練り、本番を迎える。本番ではビデオ収録する。本番後は、クラス全員で講評をし、実習担当者はビデオを視聴後、振り返りのレポートを書く。実習担当者以外は、後ろに座り実習のコメントを記入し、授業の中に入ることはない。

「初級日本語1」は単位が授与される正規の科目であり、履修している学生たちは良い成績を収めようと勉学に励んでいる。実習生が教えたから成績が悪くなったということはあってはならないので、実習準備は綿密に行われる。ただ1学期間、授業観察をしているので、次の利点がある。

- ①実習生は対象である「初級日本語1」の学生をよく知っている。また、「初級日本語1」の学生も修士課程の学生を知っており、信頼関係ができています。教案を考えるときに、どの学生をどのような順番で指名するかも想定できる。導入する際の文脈や例文作成も学生の背景を熟知しているので、妥当なものとなる。また、既習語彙、文型のコントロールができています。
- ②担当教師の授業のやり方を観察してきているため、そこから大きく外れるような授業はしない。実習となっても、基本的な授業の進め方や使用する用語は変わらず、宿題、クイズは従来どおりであり、「初級日本語1」の学生の混乱を招くことはない。

この修士プログラムが15年以上続いていることは、この方法がそれなりの効果があり、評価を得ている証拠だと言えのではないだろうか。

## 6. おわりに

ヨーロッパにおけるボローニャプロセスの状況を把握しながら、英国の大学院教育における日本研究の現状を概観した。さらに、ロンドン大学 SOAS を取り上げ、詳細にみてきた。英国におけるボローニャプロセスの影響としては、従来の1年（90ETCS）の上に、2年（120ETCS）の修士課程が少なからず増えていることであろう。ヨーロッパにおいては、

日本語教育は日本研究の基盤であるという考えは、今も今後も変わらないであろうと思う。大学院教育において、日本語を習得せずに日本研究が可能であることが見られた。

また、SOAS で見る限り、日本研究としては 経営学、経済学などビジネス領域でのプログラムが勢いを得ている。日本語のみならず語学教育を組み合わせることによって、特色を打ち出そうとしている。一方で、英語母語話者でない学生にとっては、自らの出身地域のことを英語で学習することにより、英語力の上達となり、就職に有利ということで留学生の獲得にもつながっている。日本語教育の面では、最近開講された学部でのプログラムであるが、BA International Management (Japan) (Year Abroad) は、3年次に1年間日本留学する。従来は日本語学科が日本語と日本留学に関するプログラムを立ち上げてきたのであるが、他部署が日本留学を盛り込んだ学位を授与する初めてのケースである。今後は、日本でのインターンシップの可能性なども含め、実学に結びついた日本語教育が求められるだろう。

## 参考資料

- European Commission (2010a) Focus on Higher Education in Europe : The Impact of the Bologna Process [http://eacea.ec.europa.eu/education/eurydice/documents/thematic\\_reports/122EN.pdf](http://eacea.ec.europa.eu/education/eurydice/documents/thematic_reports/122EN.pdf)
- European Commission (2010b) Flash Eurobarometer: Students and Higher Education Reform: Survey among students in higher education institutions in the EU Member States, Croatia, Iceland, Norway and Turkey (March 2009) [http://ec.europa.eu/public\\_opinion/flash/fl\\_260\\_en.pdf](http://ec.europa.eu/public_opinion/flash/fl_260_en.pdf)
- European Commission (2012) The European Higher Education Area in 2012: Bologna Process Implementation Report [http://www.ehea.info/Uploads/ \(1\) /Bologna%20Process%20Implementation%20Report.pdf](http://www.ehea.info/Uploads/(1)/Bologna%20Process%20Implementation%20Report.pdf)
- Higher Education Policy Institute and the British Library (2010) Postgraduate Education in the United Kingdom. [http://www.bl.uk/aboutus/highered/helibs/postgraduate\\_education.pdf](http://www.bl.uk/aboutus/highered/helibs/postgraduate_education.pdf)
- SOAS Postgraduate Degree Finder <http://www.soas.ac.uk/admissions/search/index.php?more=postgraduate&q=Japanese+Studies&btnSearch=Search>
- SOAS , Department of Linguistics MA Programmes 2012-2013 <http://www.soas.ac.uk/linguistics/programmes/maling/file77925.pdf>
- UCAS Post Graduate Courses <http://ukpass.prospect.ac.uk/pgsearch/UKPASSCourse>

# Japanese Language and Japanese Studies in Postgraduate Education in the UK

— The case of SOAS, University of London —

Kazumi Tanaka

International Christian University (Formerly at SOAS, University of London)

**【keywords】** the UK, Bologna Process, postgraduate education, Japanese Studies,  
Japanese language education, SOAS, University of London

The Bologna Process, which aimed at constructing the “European Area of Higher Education”, has had a major impact in European higher education system. By the end of the campaign in 2010, there were 47 signatory countries/regions and the three cycle system of degrees and qualifications were implemented in many countries, along with European Credit Transfer System (ECTS), Diploma Supplement, and National Qualifications Frameworks. Since the UK had long before established the three cycle educational system the Bologna Process had little effect, the exception being that more two academic year MA courses instead of traditional one calendar year course are now emerging.

Searching the Japanese Language and Japanese Studies in postgraduate education in the UK through UCAS (Universities and Colleges Admissions Service) website, there were 13 degree programmes with Japan or Japanese in their titles.

School of Oriental and African Studies (SOAS) was founded in 1916 and is the only higher education institution in Europe specialising in the study of Asia, Africa and the Near and Middle East. The Japanese language education at SOAS began in 1945 to cater for the military services. There are 22 MA/MSc degree programmes that are closely related to Japan at SOAS.

MA in Applied Linguistics and Language Pedagogy (Japanese) which started in 1996 is one of the MA programmes offered at SOAS. It is unique as it concentrates on Japanese Applied Linguistics and combines actual teaching practicum. The compulsory “Japanese Language Teaching and Learning” course requires students to 1) observe an elective course called “Basic Japanese 1” taken by undergraduates and postgraduates who are not Japanese majors from day 1 until the end of the course, three periods a week for 21 weeks, 2) attend lectures and discussion led by the instructor of “Basic Japanese 1”, 3) conduct the teaching practicum in this “Basic Japanese 1” course in the second term with detailed preparation and mock teaching.



## 東京外国語大学国際日本研究センター『日本語・日本学研究』第4号執筆者一覧

孫斐	北京大学大学院博士後期課程
ツオイ・エカテリーナ	東京外国語大学大学院博士後期課程
Hanan Rafik Mohamed	カイロ大学
葛茜	福州大学
篠原将成	国際基督教大学大学院博士後期課程
鈴木智美	東京外国語大学
花園悟	東京外国語大学
臼井直也	東京外国語大学大学院博士後期課程
谷口龍子	東京外国語大学
望月圭子	東京外国語大学
尹鎬淑	サイバー韓国外国語大学校
田中和美	国際基督教大学
ASADCHIH Oksana	タラス・シェフチェンコ記念キエフ国立大学
辻澤隆彦	東京農工大学

## 『日本語・日本学研究』国際編集顧問一覧（順不同）

趙華敏	北京大学
徐一平	北京外国語大学
蕭幸君	東海大学（台湾）
尹鎬淑	サイバー韓国外国語大学校
任榮哲	中央大学校（韓国）
于乃明	国立政治大学
金鐘德	韓国外国語大学校
陳明姿	国立台湾大学

**編集後記** 東京外国語大学国際日本研究センター『日本語・日本学研究』第4号をお届けします。／今号への公募論文の応募総数は14本（言語6、日本語教育3、文学3、歴史研究1、文化1）。うち8本が採用となりました。／また今号では、2013年7月31日から8月2日にかけて開催された夏季セミナー2013「言語・文学・歴史——国際日本学の試み」でおこなわれた院生発表会の要旨を掲載いたしました。国内外の院生の活気ある報告に私たちも大きな刺激を受けました。セミナー開催にあたってご協力いただいたみなさまに心から感謝申し上げます。（友常勉）

東京外国語大学国際日本研究センター

**日本語・日本学研究 vol.4**

Journal for Japanese Studies

---

発行：2014年3月31日

編集者・発行者 東京外国語大学国際日本研究センター

代表者 野本京子  
〒183-8534 東京都府中市朝日町 3-11-1 アゴラ・グローバル 2F  
Tel/Fax: 042-330-5794

印刷・製本 (有)山猫印刷所  
〒116-0014 東京都荒川区東日暮里 5-39-1  
Tel: 03-5810-6945